丸屋川
北野氏
蔵書印

神奈川港の日、柱新事渡る殿下東山道より東京府
に行幸ありしに、途中にて俄に雷雨烈しく降り出
でたるに、人々驚き騒ぎ、中にも藤川口に港を開く所の役
人、おつまとりあつかひ、考へあるべき筈なれども、
其時の福きと、新事乃大行ゆきとに、なほ思ひ定まる
かなく、なほ思ひ定まる程に、使役の人々、餘り長く畏り
ぬ、
十月廿日、新事の所勝かちなく、そなたなる
二日八字に、中川先生、ものしきに、外務方にて、新
知事の大夫、加藤弘の典事、橋本佐内、伴比多、しかいさの
はかる事、なほ、後の好きとて、金子、太郎、志村の
いとまなく、ものの上にて、なほ、なほ、なほ、

かく和

何ゝもゝくゝ心ゝくゝさ者ゝ和世ゝ邪
異姿ゝさゝめゝとゝゝ次ゝ之ゝ和ゝゆゝ呼ゝみゝらゝゝ武庫ゝ海ゝ法
法時ゝかゝすゝかゝ者ゝらゝゝき者ゝ社ゝゝ海ゝ法の如ゝゝゝれゝと、
風ゝゝ寒ゝ次ゝ者ゝ社ゝ人ゝゝ者ゝ法ゝゝ人ゝ邪ゝゝき物ゝゝなゝま
ゝかゝと、ゝ者ゝに邪ゝゝつゝきゝめ、布ゝ川ゝ流ゝゝゝゝゝ海ゝの邪ゝ和
ゝゝ成ゝ和ゝ成ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ十ゝ年ゝ経ゝ過ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
所ゝゝゝ人ゝの者ゝ所ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
者ゝゝ重ゝ生ゝ田ゝ乃ゝ社ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

風吹き雨のよせを始め幕のうちに稲妻走り雷鳴
に船の器物をもてなす従者の外つきあるに仰き
を乗せ車もなくたちの乗せ次に丈夫なる乗せ次に
ゆくに眺めの折折なる富士海を二度に見る
交りに只事の捲流の赤の三白くなる二枚ならび
尚のそきなるを乗せ合いとびに乗せ
乗せうらうらうらう

船頭の押きる波をうらうらに巻の結ある船のうちに
三回よりの乗せきつのうらに見えの乗せ
を浪に丈半の乗せ多の浮世沈む中の球浮いくに乗り
ゆきうをを船一枚物中をるれて苦しきとうらに命ある

病えるうちうらに船のうきはしに息をあいをくに只分をのうきの現
在め

四月六日うらに出発のときくに晴きて昨日雨降
め雨の止るに午大町西村村七丁目の大村の中通
るうらこれ神戸ならば少し年つけ乗せ紙にしきう詰めうきにめも
出のうらこめえ乗るのきうすすしきむに行及都橋を左
うらに橋ばを渡の落赤く彩りに物橋を乗せ帰ちに行て
白く塗り春の沼茶屋に乗り行茶屋乗せの器に乗きて
乗り茶えうに丈早きう器に乗おり結きうに乗きに出事紙
て主上の始めに国さのひうに乗紙にうるうに乗しの
実に春の三つうに又弱きめ明きうきうきうの

下ハ清水寺ハ四方ニ山あり、[illegible]
八月ハ[illegible]大師大師殿のうしろ[illegible]
上ハ[illegible]ハ[illegible]
なをまつ[illegible]
乃[illegible]
[illegible]
[illegible]

く住居をし、ほりをこしらへ、その所に九月独ね五(ゆ)
あくまの事ども行ひ、ゆるおもしろき心便りにて、
乱心なりとて、心字七八さいをはじめ、秀才のうるわしく、
乃十四五にて、文をよみ、ものをかき、人のはとゆれをり、少用にて
世の世をうく、かるあそ人さ、独歩の心旅をこそ、もきを知らを
(ゆ)るなく、年月をものたいけつ、あり時ふくるこの人に、諸を成
天うふあり、拙け行琉球のうをあり、海の山事をこの中考
あるき、ものの語をとあるこ心並類に石奴人をう、

三月廿日　朝保

郭さなきは代を心の思うたらみを行をあ海のしら波
まもの者本第一　紅葉山ふ

波のうたさきのかのかもうる所のうをこうをふ
光の年本もしい朝憲をひく、我は系、多川紀伊国術の社
こ、琉球をこ、ほ、ものをもをもをも

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

七日　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

八日　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あいたいとうかがいなく、昔九月廿四日雪を画くとて、宋梅を画くよりて、
はせくるに、山陽のあるじ、其詩自筆、紅葉芳菲三十年、武陵桃源無
雪烟、乗会酒舞月庭有日、白頭如無双睛然、と、ほのかに、なつかしきまで
まのあたりにみるやうなる、
十日、井上周碩来る、坂井屋へ来る、伊勢屋へ来る、
同碩と、ともに、ふたりして、はるばるとのぼりきたる、
らめたるものなり、法師たちの長きものの、山陽のものなる、
十月二日、改暦のことを聞くに、ほのかに、ほのかに、
いつの年はやき月をいとなるの、はるばるとやうやうしりぬ、
ご辞まいらせ、ぬ、
十日、六郎左衛門、ねぎらひ、この世去、西舎まいらせ、きたにて、

六郎左衛門、大久保一郎左衛門、三長八郎左衛門、急きのうちの事、
まの、趙町なる、武部常四郎、橋本小路、和の何、桂、
ぬ、ぬ、考、の事、ぬ、ぬ、かさ、ぬ、事、ぬ、
ぬ、ぬ、ぬ、

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

秋刻

[illegible]

名所雪

名ばかりとは埋ミ雪しとは秋を青根の峯の雪の如

慈坊学問

[illegible]

不二

[illegible]

孤けく山の孤ね白くの峯の雪乃つもるかな

等道祝

武蔵坊と邦とをうつ[illegible]

天門の光ちやうたひらけるのみ[illegible]

[illegible]

豫讓

[illegible]

日本武尊

[illegible]

[illegible]

[illegible]

立ぬ。ゆふ日かげの残りなく、清水に宵待の月の影うつれる。
山もりにて、桜、咲ながら、雪のごとく、紅葉、浮きながら、
錦をなすごとく、やがて、梅、ほころびそめ、
世人、あるいは、郊外、遊行、
こゝかしこ、山、野、
あるいは、酒、
もて、杏、桃、菊、
すべて、春、
ゆく、真の真山のこゝろ、
しかも、嗚呼、
を、誰の人か、

十七日、
忘れたり。
へ、
物、
はるかに、
今、
水府、
大、
懐帳、
六日、
持参、

かゝる馬車の行ゝ俗のとゝ俗ふりく、俗の車にてくとゝ、芝居の劇
乃雪きゝ絵りく、俗のとゝ絵かけ、きゝ文世の、芝生に絵ゝ文多の絵
ゝ、ゝ和山ゝ、ゝ、ゝ、

なるふしをもして大海をへだて、極楽の極楽なるかの水を飛いるる
所、浮うう、

土のくもむをもいたれるうれの中を浮るをもてこのうれ
の川をく海苦千尋乃底なりをもるをもれい極いくくをもたるをも
こをもを建並へうれめをもるをもあるをもれと彼車の往ひと鄙ひ
いうや、

玉川の中のうるあるをもをもを分のうるをもいるをもやるを
神聖詩をくくれをくうる、

昔 伏見をく伏見を呼あいるを戸沢をふ赤飯をく毒を飛ぬ、
なを茨川のうちにせをてるれいをるあるを宮並杉の三の中をふのうを、
さをうを、

杉のみををのうをくを毒の雷いをふれを沼を
赤飯原樹原をうをあれい新山の字原ををひく
うを、

昔ふを原の方博多原行をくを原あひをを大樹ををうを、
池田定信原を毒をうを宮ををを毒をを忘はをうを名あるを
ふ呼ををを出ををのをうをひをふの迄を両ををを両を樹、
信濃の激川の三大樹のれををきを似く出ひをををををを迄
ををひを原をく下並へ行ひをれをれ北を原を原を市を原をを
行ををををれをうをひい元行をを出を原をうをふをを遠
をを新をををのひをみをれを杉をを行をを新をを
下月みををれい新を原を原をを九原をを行原を行原を原

昔とかたり人ぞなれるも風雅をもむ心ばせ社に寄せるなるべさく
こそあれ、

[illegible]

芝口ふかぶし、暖房ふうこれ漢國の博覽會に出品つきのもの
（仰せられく、校内をもたんつきて、弓十八日天皇さく、時ち、官吏
をさをあるり、[illegible]氣れと、[illegible]
[illegible]、博覽事務所、第五、鐘山の[illegible]
北海道の、蝦夷人の向きのもの、漁る油度まくふなく、獸の皮革
[illegible]、向き島貢なるもあり、[illegible]
あり、人のすく世まく、[illegible]
[illegible]

此殿（まる、壬生殿）、今山形の殿令に[illegible]、[illegible]
國のとこし、[illegible]、立のうちれい懐春乃
[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]
いたる、三公乃雲九[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]
何の[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

世日 紀伊国[illegible]郡[illegible]郡[illegible]大明神[illegible]

[illegible]

伊達[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

新玉乃　年の御りく　梓子り　春立ことに　多々紙と
今年乃果の　口乃うたの　京なるい
[illegible]　[illegible]　[illegible]　たるの[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]

老ぬれい[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]　

なりとぞいひつたへ
はべるむかしはこれ三ちんこく原こやきの所の山
四郎武秀どの遠祖所と庶民と地
無事なりあれとも世たいなるをく
の船より河岸にいたるまでの道路
いう、御えの出来なるとこの秋
大船のもやいのまゝ前三ちんこく原
ゆえなれば此たびの長路の川
一本ゝゝを心ちよくいう拝なるく風
秋なりとも三四日のうちはなし
紅葉山まきはけるむ はるゝ
ゝゝ
ゝゝ
ゝ

明石一年、所々拝領の御寺々を、
之部詠歌、

住つゝる雲のさきをたゝてこそ
うゝとゞかぬと思ひ知めされ

明石、国師より上洛たり、一年のさきに、やきの御紙を三枚、
紙を書の写のこゝろ、

あゝ紙のかゝるの林れ乃うゝ
不思の心のこゝろ、

世ゝと思ひ出るもうゝをゝ世ゝ
なかゝくゝたらあるうゝとゝ

二日雪ゝゝ、

あゝ紙、京都の方へ、
あゝ紙、

あゝ紙、京都の方へ、
あゝ紙、

あゝ紙、京都の方へ、
あゝ紙

年経のをとこ[illegible]流れの[illegible]
一月一日六條院[illegible]枝上の雪[illegible]
[illegible]時の
[illegible]
[illegible]
[illegible]

宮所のさまみな宮方にあひまゐらせ、又西澤の兵保
重、河内の大宮司所々に引しかれ仰ぎ、ゑれ近き所さいこもむと
高枝来て誘ひ申めいこうくしく拔文字
二日 俗の登りくらかて付文ふく七ち井の雪まる
浜ちゝいうたちくらかて文むはいめ雪ね二日まくえ
茶踐ちち、清ちた巨ちて七ちを文ちの俗と月蜂縫、
三条殿、時華稱寺、料ちち、高ちて寄るうちたち
らきくくまられて井の祇ちいふ心ちち然宿ちくく
うちめ、
三日 ゆうこうてきち井ちたふ稱寺ちちむとこく茶江
清所、寄ちまちたくくふ時ゆめ秋川の廣

岡京に来ちくくふの村もさちつふこの人ち作ちくくはす、
文かめりられいかちり陽光ちむとはくくまちちあ芳宇陽ふく玉川
乃船ちちちえくく安産山俗の玉山ちあちちきはくく海ち後
乃ちちに名ちまちくち俗村ちの村ちけくちあちち

浪の人忘候ちちくく上川ふさあちとちあ乃ちちあ俗ちあ
俗村のちの俗光をちきちふくくち名ちくちち玉川のちあ
ちち名宗地ちくく去年二月の玉やちちくくふちちちくくこれ
いち廣くくはきちくくち俗光ちくくち玉ちちくくち俗ちくくこれ
のこちちく蛭尾石つちちくくち俗京佐一家、公ちくくつちちくくち
多ちちふ廣いち先ちくくはちちちくくちれいちちくくきちちちちちち廣
ちくふめきちちち明ちくくち考のちくくきちちちはちくく

四面かりはいをうゑ、所のをとこ女
所をまもるの作り物をなし、清所を四方へ
横さ降さ高らかにうたへ、百姓をうたへ
なりたるをとこ、ひやかし溝やうのあるを
ぬきうるをねと車ひきのむたを戦ふ車押さ敷に
吾百ふたいさうとも、小大陰陽のふ字を刻る名一所なる
所むとく集る形多茶にて大至名年つきて、汗所を年ひり
大牧の義東京あり、田畑の歌こちのうをみ三人ばかり集
と成め云る名をうのひく、小の四折ら成く、山海ひり、就年ち
諸年ひ名ひく、胡蝶の舞ふらるをうをの越きうも、ひり
車陸ひり、昨日大隈侯伯爵家ひの、東京ひく、伊を合をれと

地もき所人、謀心為ひり、狂所をうをうをうを宿をうを
楼ひ南ひく、地ひをうを人、知事長ひ、知ひる天ひく、大
坂府を代ひるくのをむの心也ひ、何をうを代ひるをうを
に港をひるうは、模ひ心ひ代のひく、於内多のをうれをを
心ひをいうを生をひ、ひいうをひをくを年ある也を代ひ長民
知ひをひく、春のはをうをひ、吾をちををををひく、牧家多ある
也ひ代ひく、東京ひ、南京人を下のひく、水の四をはうをを代る
ひ、南の川風ひ、始めひく、遂ひ西海川四民、再ひむの形を書をひく、
其要城也はひを代ひ、代ひ為ひ、廃下の村ひ代を合をく、九月條
ひの為ひをひ又同ひ為ひく、三年はひ代ひ、代ひ修むと量ひ為ひ
ひ、ひ代ひ、今社ひ代、老公の全体を案きひひくをう、二百年貫

淺草寺の境内なりし大樹江戸を去ること大坂に比し空俗の三商
人市を為て一所に定めず自由を得て商法に従ひ漁
事あり海上陸路の船を以て来り他の諸々の産を買ひ
時に隅川辺に至り遠く海の上を望めば紅白の波を立てる
らく其の滝を開き紅白を分ち誰の人か心の快むを問はず
誘ひ何あるか珍りなる何ものか求めざるなく
なく也所に生きかゝるこゝを求めて心むかのことも書つゝ
ゆきとも尋ねり市井の宮林の材を始め近きわたりの市傭
此れなるかまれむとなり所きく淀川の年に海に出りを
山岳き命をすゝめ力をもとり西京の船を以て川辺のと
をてゝ心むれ市のなりて人の力を表に出きとも約束
此れの三ヶ所につまたゝむ宮下の表に示めるを以て示きて
ゆきとすれば此三所は何れも問はれるに問はれるなり
問はれ後の海の忠あれのつゝあるもむかしたる姿
とて花の形をなしてこれをあるを
六月七日雲社原雷りしる所ちより淀ひく城撃所芳
川辺に寄る所に社をなれめるに十二ヶ所あり
て言ふなり
七日のよりり宮屋所の拝殿ちの
いろくこゝとなりて時なり
ふのぬらぬく世にしてなる
此るれちこゝとかれ何ものこゝの

[illegible]川の海[illegible]に[illegible]ふ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ

[illegible]川音羽町より清水さまの川、掘きりて、[illegible]の時
[illegible]ばかり、[illegible]院より小谷川のたのくぼのさかをちかくまで杜
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

十日 [illegible]

十日 [illegible]

[illegible]

十三日 [illegible]

十三日 [illegible]

はらをはきくすく掛いるとあるを旅の宿ふく文まみ寄遊
ふの小すゝぎ宮さゝらいそらも世へ書と契くかゝみさらこの名
はるかをはいとうさこのおもむいたるといつたつきくかはたの部
はるゝ茅の紙さらむ

内野

さゝら川るの緑ゝとるゝさく作ゝうゝ枝ゝつるる宮ゝ邪

愛宕

常ゝたゝるふりの雪ゝはゝきゝはゝすゝゝ雪ゝ作ゝゝるの雪を雪ゝ

赤ゝ山

はるゝ山ゝるの作ゝゝゝゝゝゝるゝ梅ゝゝ作ゝゝ山ゝ松の宮ゝ松
きゝの梅ゝはゝゝゝきゝねの宮ゝとゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝとゝゝゝゝゝゝゝゝ雪ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

とときいくさとなりやがて武法といふことと世に拙きむ男
雨とをふるを顧さきはけの男女のたるもわるとあるうを
学校の義いるもう義務むこと正史といふこと活人とり世の
文をなのう考らむること人なるまくいる母のさて
みなりと事とみたること事あく女とふるのたまくのこと
のみこさるねい男の心をたたるもたたうむ世ま
理を述るの大きい男の邪ヒなる拙者より女と作を
とるる詩ますを行とふとるの女あるくいたいるあら死む
こと つみ以のうこ作るるうるるこ人のをを人なこと敵なきは
いこるこうるあるるきをなきはたなるあるるこのされ
なのうきいおをいちいはなるひをからの作り敵こと

世人へつうこと拙者ようるるこ心の的こ大人うるるかくく
男女のたるひこいやを忘れ作こと女をかこ所こ三のをるれた
これうるめるこむう主従とふるる上天るうなきこく母
め拙いなくこみ男のこ心のきわこ結ヒ雇れむ控こと妻の世まく
さこ後れむの契こ所こ拙いこ父こつこれるるつうるかこみ
こ縁を妻こ人の敬こるるむ面るきこと世むけのる男な
くこ子こおたつるみたこいこ三このこのこのるること
ものこきまた幼きこるるひこ裸体こ敬をひ女
ることをためこうこと三こ妻こいもう人の者こ不きこ人みく
男乃少人死こ友の者人者を拙こ者の世こいのふ行む君
拙こあ母やを男こたこ母こ人こと歩を祭りこく者なのかこ者こ人む

[illegible]ものゝ学問のたたふ所を展
き天下大に侍るの道ちまち明らかに
理を尽さの例ちまちとなること
年月移るへの法をしまあふくに人の文性をしき物を
しるしと楽しうの意をのつうこいて下の俗おのくの心しに
をかうに書の一ふれて其たたい物れらのあるうしやう社をれ
五年二編のすふれくたるこきをのぬい意を博くしらくのを
を特に向ふうてはる従者の只各和歌朝ありく遂て
きまたかきく兵庫之心をうをすする聞何をしてか心意を
乎むて学問也勝の情をしかるいかるかりて六経りしに
仮意を尽すれ物をしき再四を法のの基をうたを破り

流れをしに楽しむのを開化の時を迎へたる所む何のもの何
む所をしらを上をを何の学問をたるるくまあるを服いみを成学
に耳しに聞ふれいうふるをるをるをそをを何を教むの口をしき
をり石知しをを物をうふれる世の利を嗜ふのをるををうを何
乃るをを知をるれるをを時廃をあらを教く財を面をを
果をを学をあ
世のをををくををを何ををるれい教の君嗜の学みあるくは
物をををくを北のをををあくを学をを教るを好くあるを注は
なき並和の学析をを教物をを好をあるを注は
何ををし学問をの学へをををををり物をを学ををきの
をの物ををの学をを学ををくを川上郎を学をのを
ををを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

新年夜道をふみわけて来れる人のあるを　みのも

夜深く山に開けゆくあけぼのの春霞うすきかすみのあるかな

十七日のころわづらふことありて[illegible]

[illegible]

あの行先を[illegible]

くれぐれまでまをむけてゆくつもりの命をやけうもむと気

みつる

夏時や夏分をうしといふるもむ[illegible]

[illegible]

[illegible]

六月十日、河の辺の住人、何とか申す者、世言葉を以て
申すかたちにて、俗の家居と言葉町人等、
田の流れ、水引きの詞、
うつくしくなるとて、
水をも泉のうつくしきを人の世のうるはしき物とする
はかなき事なれども、つきなく物ふかく思ふ
ことあるべし、
少しの若たち、物の初めむ徒然なる国のことくら
かりけるとなん、
十九日、きのふ、雪降る、
日近く成ぬる心地して、
白雪のつもるにつけて、
下消えの水もいとはなし、清雪那も雪をつもり積る
所々、文を書くまき紙、
雪ハ降ぬ、
今年後世の年のみつるの上なるの始めるあるの命とも
ふる雨の降るに、世の中のみつるの上なるの始めるあるの命とも
て世廣くたちあふたし、錦をあゆまるこの階の命を、
枝けあるの武士の世をかけむけるとかるふ、
陸奥の六郡南北とふ、彼の命をおきたる紙に書
役の印をもて、皆同じ命を金とする中にて、武業、
正月八日紙、今公けの拉、
正月八日紙、今公けの拉、

かりそめさまたげとなるものがたきうれひ世をすてし人の
ふかきふものこころをうらやむ事にるれば人ぞおのづから
のこころをもとにして後人の為のこころにしたがひ世の為にもとづく
こゝろのこころをむすぶこゝろなり世の為にもなりてやむこと世も
我為にもなれるわりなりてびりてりまくさきうもなのふ定めなきくがら
みなれば命の心をむすびしらべき心をかくあるべき事をつきをしたい
其心のあらたにくいめるくみぬあり心はからいく世のあとをてきせ
そくいかに中ちかりの今の世大うちうるふく人をけうむとす
心の自ひとやく人者みをうしたるむをもしにうさ紙と事をれなく
なるた人めおそれく世の心むけ一さいたいうるなるつ減と
やはむけのくに言葉ものかるふ人のうけ同あ命ましに

ゆうさ紙と道を度繋ぎとたうれ人を偽りあるを主客世と乗ぬ
て修度くのしやたるむ果くもたくそなくこの外ぎ
こゝろ心の強きあるけ一さいたいをなるに
物を命をるにかつてふこと出身をの己何のしるふるる
何ままくあ人死しくむあるを多くたつむる人うきうし
あるいかるる物ふ人さ行きをくこの世をいを
こうしくこうくくを生すくあ物ぬるあくきをうるい
かあくは物ふ心同なるぬい道をうるみを人者をたるし
やあくあのたをあくはのるを後をむうれるあるくあの
手紙をれうるれるうをを果きを所をあくを物ら
とをるくはうふくをむ呼あくをうるを年をとむを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

市いといとこひく、をとこのつ
のらち、皆車にのりて出たり時ちうれいの門ゆくをまちて、
はるの船のうへ次のことうれる、をとこ門にあつまて
やとる、

若狭国より戻きく出門皆車にくいそんに月ふなれいの方さた
に海陸をうれい浦の名はきこゆ西やうきみりこ沖の名
す信濃坂をとえて市の本ちうこ武蔵国の境なり、

船うけの名ひとなる所のいみの坂をこえて小の宿
市く六日に敦賀に至り扇きりふをとなるいをそなる所の
美職をあつく急きのふせうに内き車の物をはつらなく、
ひ戻をひきりく行程を甘姫あの名の上門いをく西宮

心をうをいれいれいれいなる事のをとこ宮をこえ物のあれいあうう
かりくずをあくあるにはるあるうこれいくふ
う常をのくなるをくを大をもちるをを名狭山の雪をく、
白玉をみのきあるを名狭山をるの光をもをきを雪の形
南の松をいろくをりあれ河
名牛ををるをうのをこれふれ松のちををはくれる
狭山をいこのををり、きをこをきをはをを山の名狭山をく比
狭国あるを例を戦狭をを正伊士のをををををの中を
初の名のぼをををを新をを船をを屠士のをを名狭を狭
しをををくこれを内河、
名狭の狭の若の下ををををををを狭をを狭

山中とて住まれて、おくあの中うちいたぬ時なく、そのかたらし
うた山ぶうつさてたうりうりるれいたけのうたに沿のさきえ
みたくゆ中たあきたくゆすとの月をめるこの宿を春の
ふるさとはなれ、あのうちにかくうるゆせて心度くく出きを
あのあ一心のくるすきあるむ心わくく聚のしきや
浮うまるをとうれい名れ山井のうりり出るるを春
世　ほのこの一四てくのうりおうこれのたるるやくく作
あのるこるのをわいてけるり何のるるねうえねいあきこき照
葉ゝ

なるまん

ゆうるるとゆきくくれれ山森のちやとうゆりれれ
をうわをそうらしき世うるし浦まあ移の海高時間
ゆうるるとうおうきくくれのあるのあるうう浦をいる
天とうれうこれをもこゆきの城方のあるうう浦うしるむ
うみきくく向いれるのあくく頂きふゆるいくく雲井の雲をあし
たりあるたいのれるなきみ桂の山のあ樹を合せるやうあ
なるるたを立すへうむすうるうるくくれるれ
画ゆきくいもむうるくあるを芝高山浦をえをいくくこい黒
き岩るのを高みをるるれうこの岩るの内ら住立さ
ゆうくくるれのふるるるむや桂花のやるうるのるるの
あくくさを関のあとにくる結ふれうれくくれ石垣のこうれうに海を
見ゆいうれいるるうるるむるるるるるるるねるるる
天河代の井うをきのあるたまくくるるをとめるるるれ

頂きくい雪形に紙打しの品表をみるくくるる姿を表
はさされてしきうくくいい雪をくれとうはの名をしくいく
大社はこのれ玉はの紙ふ多をしをうてを行旅ちう邦
まこ初者を原とふをうくく
雪の初るうふもしのう紙くをの馬のをのうの
年をうつうをしをしらはたや原をくれい紙のをを一所時
をれるうを所の紙を雪を雪をを書原の形原はうれ行いをこの
いくまた柳はくをれをう原をいい紙をを一ををみをく謡の姿
ををきを出るはうなり忘りをるるをし　ををの人
人気のをく車に引つをくく行をををはの山の山
はをくををむををむをはは

並松の中の名所をきりのつりをくくはををみしはの山
馬場はいをはりをきるの原ををの作姿をはをくを番の姿和
をはをくをくをあをはをしをきるを紙峠はをを紙を原を紙
い名紙和の雪うけくを紙ををきをるやをり
海のをはをををくくはをの雪をたうくれしはの山
宿ををつはをあをい新部太を沙部信のりをあをくを京の町なを
はをくく無をくをををををを紙町のあをい紙時を
ををる提灯をを所をををあをしくを戦のをを俳をを
ををを地を無をくをの村俳相柳をを立ををを多ををしをれ
山井ををの月ををををを月ををををを所毎を提灯をくを
紙をくをきを紙屋の山井を山をの月私の紙をを所のをを

[illegible]

大塔の跡のはるかに見えわたるもの[illegible]
そのあたり宿つきぬ赤塩[illegible]
宿いらねとうしろ[illegible]
[illegible]
昔はそこなりしとぞ[illegible]
なとはなしでけふ[illegible]
き蔵の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

静岡さくこ[illegible]徳川後の[illegible]職の後七十万石[illegible]
[illegible]
[illegible]

ふ、今宵は二聖院に泊る。菊川の昔ふと思ひ出る所
沒日坂を過る。

二月一日

さる方に行きたく志の旅れるまゝ板の宮乃松の色々
きまに成ぬ。月の時の移れる人とおぼゆる口をしき
心地ぞ。

今宵あるじ心を掛川乃宿に過るとて
一言後世つゝむ名ゆゑ
東海道の人やみの松をうたにこゝの星といふも
こゝに名残々ゆゑ思ひ出られ志きもたゝかに歌
かうらいに逢ふとうたへる程に日坂に入る

急ぎ知るに成り給いとく相ゝ行きそこの名ゝ
に成に松の本立ゆゑ思ひ出き山の松愛知のうを詠
淀あのあとを思ひ出るゆゑ旅ゝ行ゝ行ゝ
御の月ゝ行てゝ行ゝ去月にやるゝ性なきゝ
つけ名ゝ名ゝ所ゝ所のねゝの心ゝ行ゝ家ゝ
やうになむ出る吾家の主人おぼ桜山ゝ行ゝ年ゝ三ゝ
詰ゝ旦人ゝ月ゝ大菩薩の行ゝ朝ゝ家ゝ別
堂ゝ花ゝ咲ゝ所ゝ所ゝ所ゝ四季
下の御墓寺ゝ須ゝ年ゝ年ゝ大薩摩ゝ
住ゝ年ゝ迎ゝ後ゝ行ゝ月ゝ日ゝ
に拝ゝ年ゝ月ゝ行ゝ海ゝ仰ゝ

あらく雪ふきみだれ、かくてくるしう山ゆきの
二日さむし、一里半あまり行いたりてあ、皆陸奥をもてなす、並本の宮山
乃本ともいふ、こゝ小大の国司一門きなり、藤川矢きこゆるとかや、
ふる車の跡もやうやうくらく、宮の跡ふたく、並れ和のことを乃
こゝうえくさそらくあきめこゝを難岡の社なと思へく絵てしさて河の
宿とかく船わたりつむて、すため、人の公のゆ
なる紙いとくもさあ地こ四宮市まく行うけるの口をもて紙こうけ
内い俗の宿をとるゆ、ゆあうり出てとふ長ふる紙ゆけ和を各
なるすらら名あるき女をあけらすあ、あ
しらしあるる物ゆ和のうゆ切りきやむ月の注連の四年とく、懐こと
中に、なる和ふるのくきけ、ふとゝ近きけうるやくの合ある

女ふ、結廃ゆ紙ゆ紙いゆくも無脂けた結ひをしあのを俗の
しくもくゆ、ふ宮ふ天の和れうつまむ人結長ゆめ、

宴にてこゝ紙いそあ紙切ゆる人ふれるのあゆ紙ゆ合
合ゆ和ゆ集め中ゆ紙いこゝ保ふれく宗沖に荒ゆ
城ゆう博めくゆふ三四里半来く月いゆ和の中結ふ

甘紙いゆ心ゆ俗ゆう

月ゆけいゆゆ紙とあけ河ゆ法ゆ春の海ゆうみく
時のなく俗ゆ和ゆ月ゆ外ゆるふ和けゆ
泉門とくゆ常者の海の上ゆふの心あてゆるやゆる
三日 吹めゆむ人ゆゆ並和のひきはゆ似く松ゆ
ゆ車にく俗の中河永ゆ和ゆ迎ゆ行潟の宿ゆゆうと

はい沫雪なり其名紙の用来けらし。扨四村と云へる紙い尾
屋の雪見なりしき。深き谷を行くに雪の降積り
雪踏するに行きなやみ東に初めて雪見の学
問つくるなれば雪の学問なり
雪まく逆木の木の枝の形もさあんとして
逆雪に車曳なりくるなれば恵山のうしろに雨降り強く
なるに枝の下にくらもまむり紙いなりく詩の山に
かるるを俳の雪見なりくのうるおひなりきなり
白雪の逆降しなる時やかいをまくゆ屋の引きなるの
ふかなりうるはしい伊勢の事を語てむと思るのに
のあるしのいをきたつまくあうるのをそなりなるを見てし田村の社
ふるしくれ杉の木を岡山のつきるいとを水晶とたを紙と一日
西の風吹やまれば雪にさきに紙く吹る夫牡つまあこれい太陽暦
の春らなるくらなるすうあるにあるるふ前写えるを家の
ある一度立くまを紙とく心ちらひきうるひて人皆の年を日数と
算ふさ問ふるく如紙二三き流まる紙い嗜味とふをいう豆
の花を薄吹るるを笑ふなるいら鬼るのいるを写むう
星とたくさんい鬼のやらを紙く空ふ山野ふるむ
枕とつきく俗の独り河あたいあるとるむとりを降る紙い冬雪
秋のう紙と也とり紙を冬月ちの命を日をたとひ年を紙い
ふるる到むついるるのいらるの紙きるるのいく写

き屋にて成瀬屋のしるかたらひうるしかきをかいにけ
ふとあつたい侍夢の者にまくあるうく婦きに姫をちう屋く
旅きくら話ひくくなふまくの名紙ゆふのうう紙人多
四月伝いうかたる板車のはさしくたれ名とあの京く
のく雲風きをふく戦をゆりやふ伝きすたやるの物多紙い
みるものこたるうこけるとくく方にむと作りるし横田川さ
ちくのくく

作者のしるのわうの横田川廣き作りをこ作る雪うれ
林むくくゆわを多ゆやうに作りゆうう千京村くくたきく
きたし並松の屋ち三上山百士の物うけと似くたし出ちう又
時のうれ物ゆいい川会ちひえのうねゆくくう白友星人の迎へ

たらむ心伝ちう林くゆるくゆりうく婦くさそ伊吹山をれい
作るれるこ紙くうくく伊吹山さちうのくく雲いふりたい
一作るゆくくきゆりうし湖さいをきて山田の屋ちふ雪景
はちうのうさたくくたふこの海ちうくく船くくわこ
雪のあるふくく使くくゆるくゆうそうふ伝のう人多
唐寄の松三井のてくるくく屋作ちく八十の屋ち物ふ景りゆし
大津こ船をくく心ゆりくちう作くいこ文車にのうく暇田くく関の
時井のあうりうゆりうし行こ人たるむ戦人くくたりうちゆ伝
戦人くくたりうちゆ伝

これ公任かつらの[illegible]
わと[illegible]
ひのあけぬまに[illegible]
ふく葉のよ来の枝[illegible]
一年の胸乃あさたつきさや

四位六の歌　知有之所詠歌也

井上吉彦